

「農業技術 10 大ニュース」に選定された、これまでの環農水研の研究

▶2018 年

未利用バイオマス資源でアメリカミズアブを生産，水畜産飼料化にめど

社会的な課題となっている食品ロスなどの問題を解決するため、食品残さのリサイクルに昆虫「アメリカミズアブ」を活用しています。

食品残さなどの未利用バイオマス資源を高タンパクな飼料や肥料に再活用する研究を、共同研究機関や大学とともに 2013 年より着手し、ミズアブ幼虫の安定生産や処理システムを構築しました。



食品残さを処理中の幼虫

http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/portal_info/doc/2018121900015/



▶2014 年

飛ばないナミテントウの育成と利用技術の開発－アブラムシ防除に強力でやさしい味方誕生－

薬剤での防除が困難なアブラムシを予防するため、天敵のナミテントウの中から飛翔能力が低く作物上によく定着する系統（飛ばないナミテントウ）が育成されました。

環農水研と共同研究機関は研究プロジェクトを立ち上げ、飛ばないナミテントウの実用化を研究し、大量増殖や品質管理法を開発するとともに、複数の作物において飛ばないナミテントウの効果的な利用法を考案しました。



アブラムシの天敵
飛ばないナミテントウ

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/info/doc/2014122200017/>



▶2014 年

豚ふんをリン鉱石代替物に変換する技術を開発－家畜排せつ物のリサイクル推進に期待－

農業用肥料の原料として欠かせないリン鉱石は、世界的に資源の枯渇が危惧されています。

環農水研と共同研究機関は、リンを多く含む豚ふん堆肥を炭化し、リン濃度の高い炭化物を効率よく回収する技術を確認しました。得られた炭化物はリン鉱石の半分以上のリン濃度を有しており、リン鉱石の代替や有機肥料としての効果を確認しました。



豚ふん炭化実証試験機

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/info/doc/2014120800011/>

